



そんなことがあってから、娘さんに
「パンは牛乳につけて柔らかくしてあげてください」
「煮物は舌で潰せる程度の物なら食べられますよ」など丁寧に説明しました。
すると、次の日朝、「パン食べたのよー!」「ありがとう」と満面の笑みで迎えてくださいました。

それからは柔らかいものを提供してくれることになったのです。
愛はあるけどやりかたが判らなかつたのだとわかりました。

そういえば、以前からどこに出かけるにしても姉妹のように一緒に出かけていた話をききました。お母さんとお出かけできなくなり、イライラし、寂しさをぶつけていたのかもしれませんが。その後は私たちのアドバイスを快く聞いてくれるようになり、ヘルパーとの信頼関係も築くことができ、しばらくは順調に介護することができました。

ですが、その時間もつかの間…。しばらくしてお母さんは緊急入院。そしてすぐにお亡くなりになりました。

利用者さんがお亡くなりになると毎日訪問していたヘルパーはピタッと疎遠になります。

2年ほどして、風の噂で娘さんがお亡くなりになったと聞きました。

たしか、60歳代だったと思います。一人になってしまった娘さん、お母さんがお亡くなりになってから一度事務所に寄られたことがありました。私はお会いできなかったのですが、もう少し私たちと関わりを続けていたら違っていたのかもしれない…と今でも思うことがあります。

おわり



※おわりに

病院で入院中に「寝たきりでも自宅で最後を迎えたい」という希望をききます。その希望が叶えられ、そんな気持ちに答えられる介護ができたらと日々奮闘しています。ですが、まだまだ介護職が不足していると思うような介護ができないのが現実です。介護の現場ではいろいろな事がありますが日々人生の勉強ができる素晴らしい世界です。今後も訪問介護に興味を持っていただき、訪問介護のヘルパーが増えることをねがいます

新型コロナウイルス感染拡大に伴う
利用者みなさんへのお願い

- サービス利用中は可能な限りサービスご利用の方もマスクの着用をお願いします。
- 利用者、同居の家族のかたの体調不良(発熱など)はあらかじめきょうと福祉倶楽部までご連絡ください。

有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイソプラ101号
TEL 075-958-2560
FAX 075-957-2808
E-mail info@fukushi-club.com



「制度の持続可能性」という言葉にご用心

増え続ける高齢者を前にして、介護保険制度の持続可能性を口実に制度の見直しが再び議論が始まりました。

制度の持続可能性の名の下に議論されているのは現在原則1割の自己負担を引き上げることや、軽度とされる要支援状態や要介護1、2を介護保険の給付をやめて市町村の総合事業に移行することです。

また、デイサービスの介護報酬を「出来高」から「包括払い」(まるめ=介護度によってさだめられた月々の定額制)へ移行することも検討されるようです。

これらの案が認められた場合、現在1割負担でサービス利用をされている方がこの議論の行方によっては一気に倍の負担となり、デイサービスは限度額のやりくりでこれまで使えた利用回数を制限されることも考えられます。

いずれもいまの制度をさらに使いづらい制度に変えてしまいます。

制度の持続可能性って何でしょう？

要介護5のかたが在宅で上限いっぱいまでサービス提供をうけたら要介護5だとおおよそ36,000円+α(食費など)の自己負担です。

2割負担になればその負担額は72,000円まで一気に拡大されます。

一方厚生労働省が公表している

「令和2年度 厚生年金保険・国民年金事業の概況」によると、月々の年金平均受給額は、令和2年度末の時点で、国民年金がおおよそ5万6,000円、厚生年金がおおよそ14万6,000円です。

たったこれだけの年金しか受け取っていない高齢者にこの負担はいまでも支払いが困難です。その倍額をどれだけの人が払えるでしょう？

その負担が倍になってしまう事が制度の持続になりますか？

まさに私たちの暮らしは「土俵際」です。

高齢者の生活実態を見ると、国が導く持続可能性

は制度の名は残っても利用出来ない制度に変わって

しまいます。私たち国民はこの制度の改悪の流れ

をしっかりと見守り、命と暮らしを守る制度を

求める世論を作らなければなりません。

